

第1回経営発達支援計画事業評価委員会 会議録

- 1 招集通知 平成28年10月17日(月)
- 2 開催日時 平成28年12月 2日(金) 午後1時30分～
- 3 開催場所 瀬戸内市商工会 本部2階会議室
- 4 出席者 6名
委員長 福池 幹夫(商工会副会長)
内部委員 石田 茂樹(経営支援事業委員会委員長)
藤井 雅司(経営支援事業委員会副委員長)
神坂 俊規(地域振興事業委員会副委員長)
外部委員 松本 直也(中小企業診断士)
岡 洋介(瀬戸内市産業振興課課長補佐)
欠席 福崎 勇(商工会副会長)
山口 卓男(地域振興事業委員会委員長)
内藤 国光(青年部長)
岡竹 時江(女性部長)
- 5 議長 福池 幹夫
- 6 議事の運営要領及び議案別審議の結果

(開 会)

午後1時30分、事務局(岡本事務局長)から第1回事業評価委員会を開催する旨を宣し、続いて、福池委員長が開会あいさつを行った。

<挨拶趣旨>

- ・経営発達計画とは地域の小規模事業者の中長期的な振興の在り方を踏まえた計画であり、これからの商工会はこの計画に基づいた支援が求められている。
- ・瀬戸内市商工会は県下商工会において先陣を切って、昨年11月に承認を受け事業に着手している。
- ・今年度は本格的に事業展開するという上では実質的には初年度である。
- ・商工会の支援の要となる事業であるので、慎重審議を依頼。

協議に入る前に報告事項について事務局(松本支援課長)が報告した。

<報告趣旨>

- ・岡山県下商工会の経営発達支援計画認定状況

- ・ 事業評価委員のうち、内部委員は委員任期が役員任期に準ずるため変更がなく、外部委員は昨年と同様に中小企業診断士及び市産業振興課課長補佐に委嘱。

続いて、福池委員長が議長に就任し、協議事項の審議に入った。

(協議事項)

(1) 本年度実施事業及び事業の進捗状況について

議長は事務局に説明を求め、事務局（松本支援課長）は経営発達支援計画に基づく平成28年度実施事業及び進捗状況について全体的な取り組みを資料1に基づき説明し、これらの取り組みのうち、伴走型小規模事業者支援推進事業に係る取組みを資料2に基づき続けて説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言があった。

松本委員：創業支援の関係が非常に重要であると思うが、実際に創業を支援した事業所はどのくらいあるのか。

松本支援課長：昨年度の創業希望からの支援案件を含めると、今年度の創業支援は15件である。創業支援の内容としては、税務記帳など基礎的な支援に加え、創業資金調達に係る創業計画の策定や創業系の補助金の申請に伴う支援が多かった。

松本委員：どの業種の創業が多かったですか。

松本支援課長：まちまちではあるが、飲食業が5事業所で一番多く、続いてサービス業が多かった。

岡本事務局長：サービス業は教育関連が2件含まれていた。また、新規加入会員のうち創業支援先の割合は非常に大きく、創業支援の重要性は高いと思われる。

松本支援課長：県外からの移住やJターン、Uターンによる創業も特徴的で、地域の農産物を使い安心安全をウリにした食品を提供するなど、数件あった。

松本委員：事業者は商工会を知っているが、創業者は商工会の存在を知らない方も多いのではないかと。創業塾などのきっかけがないと相談できないことはないか。

岡本事務局長：今般の創業者はインターネットで情報収集しているケースも多い。

松本支援課長：創業系補助金の活用支援が商工会の来会するきっかけ

となる他、市の産業振興課に相談される方も結構多い。市の産業振興課とは連携を密にはかつており、商工会による支援にスムーズに移行できている。また、昨年度に引き続き今年度も市が主催、商工会が共催で創業塾が開催される予定である。既に10名以上の参加を商工会で受け付けている。

藤井委員：地方創生で国の補助金などの支援策があると思うが、これらの情報を入手できるのは若い世代に偏っていないのか。年配の方の従来からコツコツとやってきている地元業者に情報を伝えていくことはできないのか。

松本支援課長：地域において創業する方に10万円の助成制度が瀬戸内市にはあるが、事前に知っている創業者はほとんどいない。創業支援の過程の中で情報を伝え活用を促している。

藤井委員：助成制度を活用する方を見て、そこで知り、活用する人もおられるようだ。早く情報を伝えるための広報活動もできればいいのではないか。

福池議長：創業相談者のうち、どの程度が会員になっているか。

松本支援課長：ある程度立ち入って創業支援を実施した事業所は、ほとんどが商工会に加入いただいている。

(2) 今後の取組について

福池議長は事務局に説明を求め、事務局（松本支援課長）は資料3に基づき、今後の取り組みについて説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言があった。

福池議長：現在作成を進めている伴走型小規模事業者支援推進事業によるパンフレット及びホームページは年内に完成するのか。

松本支援課長：パンフレットは12月中旬までに完成する見込みで、新聞折込などによる配布も年内に完了する予定である。また、ホームページも12月中の完成を見込んでいます。

(3) 需要動向調査の実施手法について

福池議長は事務局に説明を求め、松本委員は資料4に基づき、今後の取り組みについて説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言

があった。

松本支援課長：県下商工会の需要動向調査の取り組み状況を紹介して欲しい。

松本委員：県下では作州津山商工会、備前東商工会、備北商工会の3商工会の取り組みを把握している。作州津山商工会は津山の消費動向を調査、備前東商工会は日生の飲食・宿泊客調査、備北は事業者の景況調査及び会員アンケートによる経営課題、商工会の支援ニーズの把握といった内容で取り組んでいる。

藤井委員：瀬戸内市は地産地消を推進しているが、生産と消費のバランスはいかがか。

松本委員：瀬戸内市は完全に生産者としての立場です。

瀬戸内市の人口は大きく減少するわけでもなく、流入も一定程度ある。消費は西大寺、岡山に流出している。

藤井委員：商工会として地域企業が存続するためどのような方向性を定めるのが良いか。

松本委員：地域外からお客を引き込んでくる取り組みが必要である。

松本支援課長：瀬戸内市は観光地であり、飲食業、宿泊業においては地域外からの顧客の流入も多い。商圈を広くとらえ需要を取り込む支援が必要であると思われる。

藤井委員：時代の過渡期にあるように思う。若い創業者の方と古くからの事業者が協力しながら共栄していければいい。

松本委員：飲食店の創業者はどのあたりを商圈として、どういった方を顧客ととらえて開業されているか。

松本支援課長：非常に特徴があり、こだわりの店舗が多く見受けられる。差別化しニッチを狙ったサービスが多く商圈は広いと思われる。

福池議長：価格はどの程度のものが多く、こういった客が多いのか。

松本支援課長：観光客など地域外からの顧客が多く、価格は日常のものより高めに設定されている。

価格は高額ではあるがメニューの内容を豪華にしたことで、売上が上がった支援事例も観光客をメインターゲットとした店舗であった。

福池議長：観光地となると、割高であっても行列ができていたりする。メディアで取り上げられることも非常に重要であると思う。テレビ放送で人気ができる店も多い。

松本支援課長：岡山県商工会連合会においてもプレスリリースのセミ

ナーなど力を入れてきている。当会の会員も参加して取り組む事業所も出てきている。

また、欲しいと思った商品は少しばかり遠くても消費者は買いに来る事例も多い。

福池議長：地域にあるような菓子でも、特長があるものは少しばかり遠方でも買いに出向くものだ。

藤井委員：地方創生の面でも外からのお客を取り組むことが重要だ。

松本委員：顧客が地域に少なくなり、岡山の中央に移れば、従来の考えは商売の拠点と同様に移していた。しかし、地域を拠点としつつ、岡山の中央の顧客を相手に商売をすることもできる。瀬戸内市らしいものを作って中央で売り、帰ってくればいい。また、売りに行く先に住んだこともなければ知識もないまま売ろうとしていたが、この度の取り組みは売りに行く先のことを調査し情報を得てから商売を考えようというものだ。

藤井委員：東京の百貨店などで販売できるような商品は地域にあるのか。

松本支援課長：六次化で成功した「しおかぜ」さんの商品は百貨店で売れている。また、関東から移住されて事業をされている方が、こだわり商品を百貨店等に向けて販売されている。

議長はその他で何か諮ったところ他に何もなかった。

(閉 会) 福池委員長は、閉会を宣した。 時に、午後2時45分であった。